

ひびき

Vol.16

森まさき

議会報告

編集・発行

森まさき

TEL0859-39-3190

Fax0859-39-3191

〒689-3537

米子市古豊干 304

ゴミ有料化後一年経過して

昨年4月よりゴミが有料化され、ゴミ大袋1枚60円となりました。(市の当初提案は1枚80円だった。)

市民の皆さんのご協力により、2月



時点で対前年度比▲15%になりました。これまでのゴミ減量化への協力を敬意を表します。

ゴミ有料化の先例市では、その多くが有料化直後にゴミは減りますが2

3年後には一転ゴミが増える傾向にあります。ぜひ、ゴミ袋が高いという感覚を忘れずにごみ減量化への協力をお願いいたします。

米子市の財政は本当に悪いのか？

先日市民の方から「森君よー、米子市は夕張市みたいにならないー」と聞かれました。そういえば、いろいろところで市民の方から「米子市は金がないだけ、仕方がないな」というような声をよく聞きます。

確かに、この3月議会でも市長の口から「財政破綻」という言葉が2回もとび出しました。このことに見られるように、市の幹部の口からも「財政逼迫、悪化」等の言葉が出てくるのが当たり前となっています。

果たして本当にそうでしょうか？

米子市の財政指標とりわけ実質公債費比率を他の市と比較してみると、次

表のとおりであり、米子市がとりわけ悪いわけではありません。

市町村	H19実質公債費比率
鳥取市	17.3
米子市	18.4
倉吉市	22.1
境港市	20.1
松江市	23.7
浜田市	25.0
出雲市	21.1
益田市	20.1
大田市	20.6
安来市	25.1
江津市	18.6
雲南市	24.1

また、財政の自治体財政健全化法が施行され、自治体財政の健全度を判断する指標は左の表のように4つあります。いずれも問題になるような状況ではありません(実質公債費比率は2年

財政の健全度を判断するには？

左記の4つの指標で判断します。基準(赤字)を超える、税金や公共料金の増額、住民サービスの見直しを含む財政再生計画を定め、を再建に取り組み実行します。また、総務大臣の許可がなければ新たな起債(借金)はできません。

- (1) 実質赤字比率 指標: 20%
普通会計の実質赤字が標準財政規模に占める割合 米子市: -0.3%
- (2) 連結実質赤字比率 指標: 35%
全会計の実質赤字が標準財政規模に占める割合 米子市: ほぼ黒
- (3) 実質公債費比率 指標: 35%
一般会計等が負担する公債費が標準財政規模に占める割合 米子市: 18.4%
- (4) 将来負担比率 指標: 350%
一般会計等が将来負担すべき債務が標準財政規模に占める割合 米子市: 240%

後にピークの21%前後になる予定となっています。また、他自治体と比較してもそんなに悪くはありません。悪く言えば、政治の無策を隠すために「財政が悪い」と組織的に宣伝していることを見ることができません。

しかし、安心していいという状況ではないことは間違いありません。特にこの4指標にはできませんが、米子市の財政の一番大きな問題は、一時借入金が多さが問題です。

一時借入金

一時借入金とは長期の借入金でないもの、つまり、単年度内に借り、そして返すものです。破綻した夕張市もこの一時借入金が非常に多く存在し、このことにより破綻を隠してきたといえます。

米子市においては、ピークの増減は当然あるのですが、一年を通じて約100億円の一時借入金が存在しています。これを約500億円の一般会計から見ると、約25か月分の予算を前借して使ってしまったというような状況と考えられます。

なぜ、このような状況になっているのかということですが、ずっと人口が

新年度予算 489 億円

ほぼ同じであった県庁所在地である鳥取市と張り合い、「鳥取にある施設はすべて米子にもつくる」というような風潮が背景にあったのではないかと私は考えています。鳥取市は皆さんもご承知のように、県立の施設が集中して立地しています。例えば、布施運動公園、県民文化会館、博物館等です。米子市はその鳥取市に張り合い、いずれも市営の施設をつくっています。建設には、国県から補助金が出ますが、運営費については丸々市の財源を使います。こういったことが響いてきているのではないかと考えています。

対応策としては、予算規模を縮小していく以外に無いと考えますが、市民の皆さんの生活に響くようであってはならないと考えますので、数年をかけて、予算規模を縮小しながら、この一時借入金を減らしながら、一方で基金を積んでいくということ以外に無いと考えています。

しかし、現在のレートが低いため、利子負担が約1億円と少なくすんでいます。ひとたび利率が上昇すれば、一気に苦しくなってきました。注意が必要です。

平成20年度予算が3月議会で審議されました。新年度予算の特徴として①教育予算31億5千万(△34%) ②普通建設費20億9千万(△44%) ③公債費(借金返済)71億円(新発30億円)の3つがあげられます。

教育予算前年度比△34%

まず、教育予算ですが、市長は「昨年度は大きな事業として学校給食センター(約10億円)があつたが、今年度は大きな建設事業は無いためその分予算が減った」と説明しました。

これまで米子市は教育予算の予算全体に占める割合が低い(10%弱)ことを多くの議員が議会で取り上げしてきました。今回はこれが実に9.4%に抑えられたものです。

施設関連は耐震調査、一部設計のみ

建物の耐震強度はIS値であらわれますが、姉齒建築士により耐震強度が偽装されていたマンションでIS値が0.5以下の建物からは全員強制退去させられました。米子市の学校施設にもIS値0.5未満の施設が複数(5棟)存在するにもかかわらず、現在も子どもたちはそこで生活し、勉強

しています。一刻も早くその対応が必要ですが、2棟(教室棟)についての耐震設計予算が計上されました。また、耐震調査が完了していない残る施設(7校13棟)の調査費用が計上されました。

普通建設費が前年度比△44%

普通建設費は平成15年度以降30億円台で推移してきましたが、20年度は対前年度44%もの大幅削減し20億9千万円としたものです。平成10年の普通建設費10億円が平成20年度には実に当時の20%に削減されています。米子市の建設業には約3,100人(平成16年度)が従事されており、あまりに急激な減額が雇用に影響を及ぼし、ひいては米子市経済全体に悪影響を及ぼすことが懸念されます。

適正な起債管理

今年度償還元金は71億7千万円で、新たに借りるのは30億円となっています。つまり、今年度中に借金が41億円減るといふ予算です。しかし、これまで財政当局が示してきた中期財政見通しでは、平成20年度適正起債額を41億円程度としており、本見通しに基づく行財政運営とは大きく乖離しているのです。

以上、3つの点及び、現在の財政状

況から、あと10億円程度は起債をし、事業費を確保しながら小中学校の施設を改善すべきと思います。

森本正一

予算にしがじぶ賛成

平成20年度予算が可決され、施行されています。この予算は述べてきましたように、残念ながら市民に明るい未来を約束するという予算にはなっていません。私の本当の気持ちは、予算案反対でした。しかし、予算案には4月当初から必要な予算も多く含まれており、これをすべて否定するというわけにはならず、しがじぶ賛成に回りました。

米子市の学校施設はぼろぼろ

IS値0.5未満の施設が5棟衝撃的な事実です。まだ、調査していないものが13棟、この中にも0.5未満の可能性があります。しかし、その耐震対策は2棟のみ。市民の安心安全を第一に考える必要があります。

先日、新聞報道で「ご承知のように、就將小学校の天井ボードが雨漏りのため落下するという事故がありました。幸い子どもたちの下校後であり、負傷者もありませんでしたが、多くの学校施設で雨漏りが存在しています。充分な維持管理予算がついていないために放置され、結果的に多額の修繕費用がかかっています。予算運営の考え方の変更を求めたいと思います。」